

会 議 要 旨

会議名称	令和5年度第2回加古川市環境市民会議
開催日時	令和5年10月23日（月）午後2時から午後3時まで
開催場所	加古川市役所 新館10階 大会議室
出席者	<p><委員>（出席者：13名）（敬称略）</p> <p>グループめだか：守家、今村</p> <p>播磨ぼかし研究会：石堂・本川</p> <p>水辺に学ぶプロジェクト：畠山・西川</p> <p>大阪ガス株式会社 エナジーソリューション事業部 業務部 地域共創第2チーム：清川</p> <p>加古川市環境保全研究会：泉</p> <p>関西電力送配電株式会社兵庫支社 担当部長：牧口</p> <p>公益財団法人ひょうご環境創造協会 兵庫県地球温暖化防止活動推進センター 環境創造部次長兼温暖化対策第1課長 事務局次長：金谷</p> <p>兵庫県環境部 環境政策課 温暖化対策官：濱田</p> <p>加古川市環境部 次長：新濱</p> <p>加古川市教育委員会 教育指導部 学校教育課 課長：真鍋</p> <p><事務局>（出席者：5名）</p> <p>加古川市環境部環境政策課 課 長 福山</p> <p>加古川市環境部環境政策課 副 課 長 小山</p> <p>加古川市環境部環境政策課 環境政策係長 畑</p> <p>加古川市環境部環境政策課 環 境 政 策 係 高橋・多田</p>
会議次第	<p>1 開会</p> <p>2 会長挨拶</p> <p>3 報告事項</p> <p style="padding-left: 20px;">（1）加古川市の温室効果ガス排出量について</p> <p style="padding-left: 20px;">（2）令和4年度加古川市の施策取組実績について</p> <p>4 閉会</p>
配付資料	<p>1 加古川市環境市民会議委員名簿（裏面に出席者名簿）</p> <p>2 加古川市の温室効果ガス排出量について</p> <p>3 環境の概要（令和5年度版）</p> <p>4 令和4年度環境教育・啓発の実施結果</p> <p>5 かこがわ eco フェスタ広報チラシ</p>
会議内容 （会長）	<p>1 開会</p> <p>2 会長挨拶</p>

<p>(事務局)</p>	<p>3 報告事項</p> <p>(1) 加古川市の温室効果ガス排出量について</p> <p>令和 12 (2030) 年度までに、平成 25 (2013) 年度比で 26%削減する目標を掲げてきたが、本年 10 月を始期とする「第 3 次加古川市環境基本計画 (改訂版)」で、「令和 12 年度 (2030) までに、平成 25 年度比で 48%削減する」という目標に変更している。</p> <p>※以下エネルギー管理指定工場を除外して算定</p> <p>①2019 年度の温室効果ガス総排出量</p> <p>排出係数変動の場合、2013 年度比で温室効果ガス総排出量は 22.2%、前年度比では 2.0%の削減となった。</p> <p>②2019 年度の部門別二酸化炭素排出量</p> <p>前年の 2018 年度と 2019 年度を比較した場合、産業部門で 28%、民生家庭部門で 5.1%の増加となったが、民生業務部門で 4.4%、運輸部門で 1.9%減少した。</p>
<p>(会長)</p>	<p>化学工場の増加について、具体的な増加内容の説明をお願いしたい。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>数値については、経済センサスを基に数値を確認しているが、昨年度の 14 事業所から今年度は 16 事業所に増加した。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>(2) 令和 4 年度加古川市の施策取組実績について</p> <p>配布資料を用いて、報告。</p>
<p>(委員)</p>	<p>緑のカーテンについて、春の市民会議で、例年のゴーヤの苗の配布ではなく、ゴーヤの種の配布に変更をしているが、今年度の実績について、説明をお願いしたい。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>今年度については、ゴーヤの種を市民へ 100 袋 (50~60 名)、市内社会福祉法人へは、昨年度同様 60~70 施設に合計 200 袋配布した。今年度も兵庫県立農業高等学校に協力いただき、生徒の負担を軽減するため、苗の配布から種の配布へ変更した。その代わりに種から苗に育てる方法の資料を事前に作成いただき種と同時に配布をした。</p>
<p>(委員)</p>	<p>環境の啓発の面で緑のカーテンが一定の効果があると感じている。今後緑のカーテンとしてどの程度育成できたかを把握していかれてはどうか。市民を巻き込んだ、環境の啓発活動をより進める必要があるのではないか。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>今年度の環境出前講座においても、浜の宮小学校において、加古川市がコーディネートをしているが、ゼロカーボンパートナーシップを締結している、兵庫県立農業高等学校の学生さんたちが自ら子供たちにゴーヤの育て方を教えることをしている。我々の目的は行政が関与するだけではなく、環境市民団体やゼロカーボンパートナーの皆さんが啓発をしていただくことは重要である。今後もコーディネートという側面</p>

<p>(委員)</p>	<p>から取組みたい。</p> <p>環境や自然を大切にしようという思いから活動をしており、その一部の活動として緑のカーテンについては、まず育て、収穫し、食べることを一連の流れとし、食育にも関連付けるなどしている。育てるだけではなく、食べるということにも重きを置くなど、視野を広げてPRしてはどうか。</p>
<p>(会長)</p>	<p>4 その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後の環境市民会議の在り方について (会長から今後の在り方について提案) <p>今後の環境市民会議を、「家庭部門」と「事業部門」とに役割を分け、家庭部門には市民活動団体が、事業部門には事業者がその役割の中心を担ってくという事ではどうか。市民活動団体においては、自分たちの視点から環境課題を深く掘り下げ、より具体的な市民活動へと繋げていただき、事業者においては、企業の持つ技術や組織力等を活かし、より実用的な対策を進めていただき、市民活動団体、事業者が互いに連携することによって、市域に脱炭素に向けた取組の輪をより大きく広げることができるのではないかと考えている。</p>
<p>(委員)</p>	<p>初めて参加する際は市民会議という名前の会議であるので、オープンな場で市民がもっと活発に発言をされている会議であるというイメージであったが、実際の状況は違った。会長が提案されていたように「家庭部門」と「事業部門」は分けて活動する方がいいと思う。</p> <p>我々は保育園・小学校を中心に野菜を育てるなど様々な活動をしている。家庭部門に関して、地域を巻き込み、様々な意見を聞きながら環境啓発をしていかれてはどうか。公民館や自治会から参加者を推薦していただき、交流し、さらに市内に広げていってはどうか。</p> <p>また、市民会議のメンバーで実際に活動をし、市民へアピールしてみてもどうか。</p>
<p>(委員)</p>	<p>もともとは委員の皆さんの意見を出し合っていたが、活動をしていただくことを趣旨として市民会議を開催しているが、なかなか趣旨どおりに活動ができていない点もあるかと思う。一方で市民の皆さん、特に子どもを対象に参加できるイベントにはこのメンバーの皆さんが主となって活動されたり、先ほど事務局からも説明があったが、事業者の皆さんとはゼロカーボンパートナーシップ制度を通して、活動をいただくなど「家庭部門」と「事業部門」とに役割を分けることは意味のあることだと思う。</p>
<p>(委員)</p>	<p>市として新たなとりくみや目標を掲げられているが、なかなか厳しい目標であり、現状のやり方では不十分な点があると思うので、会長からの提案は非常に意義のあることであると思う。</p>

	<p>また、環境活動は街づくりの活動と一緒に進めていかないと、環境に対する関心は高まらないのではないかと。</p>
(委員)	<p>企業としては、共同する部分は連携を取りながらも、事業者と市民の取組を分けて考えることについては賛成である。</p>
(委員)	<p>企業としては、市民の皆さんを対象にというより、企業の視点でさらに取り組みを進めていくことが一番効率的ではないかと考え「家庭部門」、「事業部門」を分けることについて賛成である。</p>
(委員)	<p>企業としては双方がそれぞれで取り組みを進めていくといった意味でも「家庭部門」、「事業部門」を分けることについて賛成である。</p>
(事務局)	<ul style="list-style-type: none"> ・「かがわ eco フェスタ」開催について事務局より開催内容について、説明があった。
(委員)	<p>エコクリーンピアはりまの運用開始から1年ぐらい経つが、その効果がどの程度なのか次回会議で報告いただきたい。</p>
	<p>4 閉会</p> <p style="text-align: right;">以 上</p>